

一般質問

議員は、毎年3月、6月、9月、12月に開く定例市議会でも、市政全般に対する質問をすることができます。これを「一般質問」といいます。

今定例会では12月7日から3日間、18人の議員が一般質問を一問一答方式で行いました。ここに掲げたのは、その質問・答弁の概要です。



とどろきたい



▲冬空に百花繚乱の光景が…1月11日成人の日、文化会館前にて

一般質問

エコキャップ運動

平野 進 議員

「環境・社会貢献活動に支援」の推進を

議員 エコキャップ運動を推進、地球環境問題を学ぶ中で、担当部署と小中学校が連携し取り組んでみては。

市民生活部長 運動自体が環境教育や社会貢献などの観点からも非常に有意義と思われるので、専用の回収ボックスが必要であれば、提供するのを考えていく。

教育部長 本市においては、小学校8校、中学校3校がこ



▲笹目小のエコキャップ運動

議員 ①防犯ボランティアリーダーや地域防犯推進委員等の活動の検証、今後の連携についての考えは。また、安全ステーションの活用状況と増設の考えは。

②オレオレ詐欺被害の実態把握と防止対策について、警察、各種団体、民生委員等との連携等、また、器材等の考えは。

市民生活部長 ①こととして5回目を迎え、開催方法や課題等を整理し、今後も実施していく。安全ステーションの増設の考えはない。

②出前講座や広報、電子掲示板等を利用した啓発活動、とだピースガードメールの配信等で被害拡大防止の活動を実施している。

防犯対策の強化を

中名生 隆 議員

高齢者賃貸住宅情報や介護認定変動の対策は「情報提供や変更申請等に対応する」

議員 高齢者世帯数が急増する中で、高齢者向け賃貸住宅が減少に転じる可能性がある。高齢を理由に入居を拒まない賃貸住宅情報を、定期的に提供できる制度をつくってはどうか。

都市整備部長 今後、住宅施策と福祉施策が一体となって、高齢者の状況に応じた住まいを提供できる制度の構築を検討して

いきたい。

議員 介護認定基準の見直しにより、4月から経過措置で、従来の介護度に戻した9割が身体悪化で、これに対する対応と在宅介護中心に家族介護を社会全体で支えることが本来の目的である。介護家族者の手間と意見を、ケアマネージャーを入れて、客観的な判断で特記事項を重視した介護認定審査をすべきだ。

福祉部長 介護度が変更された場合、今回の認定基準の見直しに係らず、利用者の状態を考慮して、介護不足の場合は変更申請をすることが可能。在宅施設介護ともに制度上



▲コミュニティバスをもっと便利に

の問題があり、解決策を考えていきたい。

デマンドバスの検討を

議員 高齢者宅に迎え、乗り合いが可能で、低料金のデマンドバスの検討は。低コスト運営で成功事例を研究してはどうか。

福祉部長 現時点ではデマンドバスの対応をさせていたが、低コスト事例は研究したい。

とどろきたい



▲みんなで協力して給食を運びます

教育部長 ①保護者提出の管理指導願を活用し、個々の情報を共有している。②エビペンの使用方法等は、校長会議などで周知している。具体的な情報を共有化し、万が一に備えている。③アレルギーへの理解を

アレルギー疾患生徒への学校の支援と対応は

手塚 静枝 議員

「今後も家庭や関係機関と連携を図る」

議員 アレルギー疾患の児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、「学校がどう対応すべきか」をまとめたガイドラインが発行されている。本市の取り組みは。①個々の症状等を把握する管理表の対応は。②食物アレルギーの重い症状に陥つ

た場合、教職員等によるエビペン注射などの対応は。③アレルギーを持たない生徒への理解と教育は。また、保護者へは。④食物アレルギー生徒の給食（除去食・代替食）の対応は。

議員 教育のニーズが多様化する中で、全国的に心身の不調を来す教職員が増加している。心の健康問題は生徒や学校に及ぼす影響も大きい。本市の教職員のメンタルヘルスケアの充実を。⑤アレルギーの充実は。

教育部長 県の冊子の活用などを通して教職員に促している。さらに、充実のための市独自の取り組みが可能か検討していく。

※ デマンドバス……利用者の要望に応じて停留所に呼び寄せたり停留所以外でも乗り降りができる仕組みのバス。